

国立国際医療センター 令和8年度歯科研修プログラム

■プログラム責任者：歯科・口腔外科 田山 道太

■定員：2名

■研修期間：2年間

1. 臨床研修修了認定のための評価基準について

令和3年に施行された「歯科医師法第16条2第1項に規定する臨床研修に関する省令の一部を改正する省令」に規定されている内容に準拠する。

すなわち、研修修了の評価・認定に当たっては、各研修歯科医があらかじめ定められた臨床研修の期間、研修プログラムに則った研修を行い、臨床研修の到達目標が達成されていれば臨床研修を修了したと認定することが適当である。

研修修了の判断に当たっては、実際の研修実施期間中の評価及び臨床研修の到達目標の達成度の評価に分けて評価を行う必要がある。

研修歯科医の評価を行う際には、各研修項目における評価については直接指導を担当した指導歯科医等が、研修期間を通じた評価についてはプログラム責任者が行い、最終的な評価を研修管理委員会が行う。そして、研修管理委員会の評価に基づいて、管理者が臨床研修の修了を認定する。

2. 国立国際医療センター歯科研修プログラムの概要

令和7年4月1日、国立国際医療研究センターと国立感染症研究所の統合により国立健康危機管理研究機構が設立され、当プログラムの管理型臨床研修施設は国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センターと名称が変更されたため、プログラムの名称も変更した。

国立国際医療センターにおける初期臨床研修プログラムは、臨床の場で必要な基本的医学知識と技術の修得のみならず、歯科医師としての望ましい態度と習慣を身につける事を到達目標としたプログラムである。当センターの医科歯科共通のプログラムは、将来進むべき領域におけるプライマリー・ケアと包括的医療の実践において必要な臨床能力の修得および開発を目的に考案された。歯科医師研修もこの方向に沿い、他科との密接な連携のもと、歯科医師として幅広い臨床能力の修得を目的としている。医師の研修と同様に専門性・総合性を持つ歯科医師の育成のため、2年間必修のプログラムとしている。

国立国際医療センターは、特定機能病院として43もの診療科を有し、また free consultation system のため各診療科間の連携が非常に円滑であり、総合病院として理想的な運営が行われている。栄養サポートチームや呼吸ケアサポートチーム、緩和ケアチームなど、多職種連携医療の体制が充実しており、当科からも歯科医師としてチームに参加している。

研修医2年次には、当院の麻酔科や救命救急センターでの医科研修に加え、当機構の別組織である国立国府台医療センターの歯科での研修や、当センターの地域医療連携医である浜崎歯科クリニック（練馬区）での訪問歯科診療などの研修を行う。また希望者には当センター耳鼻咽喉科での短期研修も可能である。チーム医療や地域包括ケアの中で、専門を生かしながら多職種や行政と連携できる歯科医師を目指す。

厚生労働省から示されている研修目標を満たすのみならず、研修成果をより向上させる目的で、全ての研修科において到達目標を設定し、また、これらの目標に対する達成度を評価する目的で研修医の自己評価表および指導医による客観的評価を施行してきている。これらの評価表を利用することにより、研修内容へのフィードバックが可能であり、より充実した研修が可能になるように配慮されている。さらに、この研修プログラムの一環として、研修医と指導医の間で相互評価を行うことが定められているが、この相互評価は被教育者のみならず教育者の質の向上にも役立ち、当施設における研修をより有益なものにするシステムと考える。

研修においては、臨床研究の重要さも学ぶことも要求されており、学会発表なども積極的に行われている。研修修了後には、医科研修医を含めた全研修医の参加の下に研修修了発表会が開催され、研究発表能力の指導も受ける。

国立国際医療センターの特徴として外国からの留学医師や看護師に接する機会が多く、また外国人の患者をケアすることも多い。また、国際医療協力局の医師ばかりでなく、病院スタッフの多くも途上国に派遣され、国際協力に従事している。国際医療協力関係のカンファレンスも多く開かれており、国際的見地から医療を学べる等の利点もある。

本プログラムの目的は、“真の臨床能力”を有する“良い歯科医師”を育成することである。

3. 研修内容

I. プログラムの名称：国立国際医療センター歯科研修プログラム

II. プログラムの目的と特徴：

本プログラムの目的は、総合病院の歯科・口腔外科として、多くの患者と症例を経験することによって、歯科・口腔外科領域の基本的知識と技術を、さらに歯科医師としての望ましい態度と習慣を修得することである。

総合病院の歯科・口腔外科として、基礎疾患を有する患者の歯科口腔外科治療を、他科と連携して非常に円滑に行っている。救命救急センターでは年間 10,000 件を超える救急搬送に対応しており、顎骨骨折などの外傷症例も多く、速やかな入院、手術で対応している。地域の診療機関との病診連携のもと、炎症、嚢胞、腫瘍、顎変形症、顎関節症など様々な口腔外科疾患患者が、多数紹介受診するなどの特徴があり、その結果、より実践的な診療能力や応用力を身につけることができる。

また医科研修として、当センターの麻酔科、救命救急センターでそれぞれ 8 週間、6 週間の研修を設けており、歯科のみでなく全身の医学的知識、技術を学ぶことが可能である。また希望者には当センター耳鼻咽喉科/頭頸部外科での短期研修も可能である。

協力型Ⅱ臨床研修施設として、国立国府台医療センターの歯科と浜崎歯科クリニックを加え、これらの施設での短期研修も行う。国立国府台医療センターは当機構内の病院で、精神科診療などで高い実績を有しており、国立国際医療センターとは異なる患者層・環境における病院歯科診療を経験することが可能である。また浜崎歯科クリニックは東京 23 区の中でもいわゆるベッドタウンである練馬区にある地域密着型の歯科医院であり、開業歯科医院における一般歯科診療や、訪問歯科診療などについての研修を行う。

定期的に論文抄読会や症例検討会、勉強会を行っており、研修の一環として学会への参加および発表も行なっている。

III. プログラム指導者と参加施設の概要：

- 1) プログラム責任者
- 2) 歯科・口腔外科医師 田山 道太
副プログラム責任者
歯科・口腔外科医師 島田 泰如
歯科・口腔外科医師 高鍋 雄亮

3) プログラム参加施設

国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 歯科・口腔外科
(公益社団法人 日本口腔外科学会専門医制度認定施設)
(一般社団法人 日本有病者歯科医療学会認定研修施設)
(公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会認定研修施設)
(特定非営利活動法人 日本顎変形症学会認定研修施設)

国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター 歯科

浜崎歯科クリニック

4) 指導歯科医リスト

田山 道太 (国立国際医療センター プログラム責任者)
厚生労働省臨床研修指導歯科医
日本口腔外科学会認定口腔外科認定医
日本有病者歯科医療学会専門医

島田 泰如 (国立国際医療センター 副プログラム責任者)
日本口腔外科学会認定口腔外科専門医
日本化学療法学会認定歯科医師・指導医
日本口腔科学会認定医・指導医

高鍋 雄亮 (国立国際医療センター 副プログラム責任者)
日本口腔外科学会認定口腔外科認定医
日本有病者歯科医療学会専門医・指導医

友田 (永井) 衣早佳 (国立国府台医療センター 研修実施責任者)
厚生労働省臨床研修指導歯科医
日本口腔外科学会認定口腔外科認定医

浜崎 啓吾 (浜崎歯科クリニック 研修実施責任者)
厚生労働省臨床研修指導歯科医
日本有病者歯科医療学会専門医

VI. カリキュラム

研修期間は2年間であり、管理型臨床研修施設である国立国際医療センターで23か月、協力型Ⅱ臨床研修施設である2施設(国立国府台医療センターと浜崎歯科クリニック)で25日間の研修を行う。

・第1年次

全科研修医に対するオリエンテーションに参加し、オーダーリングシステムの使用法、処方、検査依頼、他科依頼の方法、院内の諸規則、患者への接し方の基本などを学んだ後、歯科・口腔外科に配属される。指導歯科医と共に、外来診療、病棟診療、手術に参加し、歯科・歯科口腔外科診療における基本的知識と技術を修得する。

また希望者は当センター耳鼻咽喉科/頭頸部外科での短期研修を受けることも可能である。

外 来：初診患者の診断法（診療録の作成、病歴聴取、現症記載、診療用顎模型作製、口腔顎顔面写真撮影、X線写真撮影、バイタルサインの見分け方、各種臨床検査法、診断及び治療計画の立案、インフォームド・コンセントなど）、治療（基本的な保存修復治療、歯周治療、歯内治療、補綴治療、口腔外科治療など）

病 棟：入院患者の術前評価（病歴聴取、現症記載、各種術前検査の意義・解釈・実施、手術術式の検討）、入院患者の全身管理（静脈注射・点滴・胃管挿入・導尿などの各種基本手技、術後創傷処置法、薬物療法、術後全身管理法など）、口腔ケアやNST（栄養サポートチーム）などのチーム医療への参加。

手術室：手洗い法、ガウンテクニック、手術野消毒、感染予防の知識手技、手術見学、手術介助、全身麻酔法の見学など

・第2年次

第1年次の研修を踏まえて、配当患者を診療し、臨床研修を行う。

外 来：保存系研修（歯周手術、複雑な保存修復治療・歯内治療など）補綴系研修（複雑な歯冠補綴・欠損補綴、多数歯欠損ブリッジ、部分床義歯、全部床義歯など）、口腔外科系研修（難抜歯、消炎手術、小帯・歯槽骨整形手術・歯根尖切除術などの各種小手術、固定法、画像診断法など）

病 棟：入院患者の担当医など歯科口腔外科チーム医療の一員として治療に参加する。また、口腔ケアやNSTなどのチーム医療へ関与を深め、病棟への往診等も行う。

手術室：手術に参加する機会を積極的に確保し、簡単な手術には術者として参加する。

他科研修：麻酔科、救命救急センターの協力のもと、それぞれ8週間、6週間の研修を行う。

院外研修：協力型Ⅱ臨床研修施設である、国立国府台医療センターの歯科と浜崎歯科クリニックにて研修を行う。国立国府台医療センターでは管理型施設とは異なる患者層の病院歯科での診療を経験する。また浜崎歯科クリニックでは、訪問歯科診療や一般歯科医院での歯科診療などについて経験する。

4. 到達目標と研修内容

A. 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 歯科医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

3. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・移行に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

5. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

6. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

7. 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。
- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務

1. 基本的診療能力等

- (1) 基本的診察・検査・診断・診療計画 [目標症例数] 5
- ① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
 - ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。
 - ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。
 - ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
 - ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
 - ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。
- (2) 基本的臨床技能等
- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。
 - 1) 歯科保健指導 [目標症例数] 5
 - ・ 口腔清掃指導
 - ・ 食事指導
 - ・ 不良習癖の是正
 - ・ 全身的健康への配慮
 - 2) 予防処置 [目標症例数] 3
 - ・ フッ化物の歯面塗布（歯質の強化）
 - ・ 予防填塞
 - ・ PMTC(Professional Mechanical Tooth Cleaning)
 - ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。
 - a. 歯の硬組織疾患 [目標症例数] 5
 - ・ 診断 (X線写真など)
 - ・ 局所麻酔法（表面麻酔、浸潤麻酔）
 - ・ 罹患歯質の切削
 - ・ 窩洞形成
 - ・ コンポジットレジン修復
 - ・ インレー修復
 - ・ その他の修復
 - b. 歯髄疾患 [目標症例数] 5
 - ・ 診断 (X線写真、歯髄診断など)
 - ・ 抜髄（局所麻酔法）
 - ・ 感染根管治療
 - ・ 根管孔明示
 - ・ 根管長測定

- ・根管形成
- ・根管充填

- c. 歯周疾患 [目標症例数] 5
- ・診断 (X線写真、歯周ポケットの測定、動揺度の測定など)
 - ・プラークコントロール
 - ・スケーリング、ルートプレーニング
 - ・暫間固定
 - ・咬合調整
 - ・簡単な歯周外科
 - ・歯周疾患に対する指導管理
- d. 口腔外科疾患 [目標症例数] 10
- ・診断 (X線写真・CTなどの読影、外科処置の可否の決定など)
 - ・麻酔 (浸潤麻酔、伝達麻酔など)
 - ・切開
 - ・抜歯や病変の摘出、搔爬
 - ・止血
 - ・縫合
 - ・投薬
- e. 歯質と歯の欠損 [目標症例数] 5
- ・診査、診断
 - ・治療方針の立案
 - ・研究用模型作製
 - ・歯冠修復処置 (築造体、仮封冠、全部鑄造冠の作製)
 - ・固定式欠損補綴処置 (簡単なブリッジの作製)
 - ・可撤式欠損補綴処置
 - 部分床義歯の作製
 - 全部床義歯の作製
 - ・補綴装置の修理
- f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下 [目標症例数] 3
- ・診査、診断
 - ・治療方針の立案
 - ・多職種による嚥下機能カンファレンスや栄養サポートチームなどへの参加

③ 基本的な応急処置を実践する。

- a. 疼痛に対する基本的な処置 [目標症例数] 5
- ・急性歯髄炎
 - ・急性根尖性歯周炎
 - ・急性辺縁性歯周炎

- ・その他
- b. 歯、口腔および顎顔面の外傷に対する基本的な処置〔目標症例数〕 5
 - ・歯の外傷(破折、脱臼、外傷性歯根膜炎など)
 - ・軟組織の外傷(消毒、異物除去、止血、縫合など)
 - ・骨折
- c. 修復物、補綴装置の脱離と破損および不適合に対する適切な処置〔目標症例数〕 5

④ 歯科診療を安全に行うために必要な救急処置に関する知識および技能を習得する
〔目標症例数〕 5

- ・バイタルサインを観察し、異常を評価する。
- ・服用薬剤の歯科診療に関連する副作用を説明する。
- ・全身疾患の歯科診療上のリスクを説明する。
- ・歯科診療時の全身的合併症への対処法を説明する。
- ・一次救命処置を実践する。
- ・二次救命処置の対処法を説明する。

⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。
〔目標症例数〕 3

- ・診療録を適切に記載し、適切な取り扱いについて説明する。
- ・処方箋を作成し、適切な取り扱いについて説明する。
- ・歯科技工指示書に記載すべき事項を理解し、実践する。

⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。
〔目標症例数〕 3

- ・医療安全対策を説明する。
- ・アクシデント、インシデント、医療過誤について説明する。
- ・院内感染予防対策（Standard Precautionsを含む）を実践する。

(3) 患者管理

① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。
〔目標症例数〕 5

- ・歯科治療上問題となる基礎疾患を挙げ、説明する。
- ・出血性素因の種類と代表的な基礎疾患について説明する。
- ・薬剤の相互作用について説明する。

② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。
〔目標症例数〕 3

- ・他の医療従事者と診療情報を共有する必要性を理解し、実践する。

③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。
〔目標症例数〕 5

- ・バイタルサインを説明できる。
- ・モニタリング方法を説明できる。
- ・歯科治療中にモニタリングが必要な症例を説明し、実践する。

④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。
〔目標症例数〕 5

- ・ 歯科治療中に生じ得る偶発症の種類を挙げ、説明する。
- ・ 偶発症に対する対応法を説明する。

⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。
〔目標症例数〕 5

- ・ 適切かつ平易に患者に手術の説明をする。
- ・ 外来手術に先立ち、適切な問診や検査の指示ができ、全身状態が評価する。
- ・ 術後合併症、術後の異常経過に対して速やかに察知し対応する。

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供 〔目標症例数〕 5

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。
- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。
- ③ 在宅療養患者等に対する訪問歯科診療を経験する。

2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等

(1) 歯科専門職間の連携

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

(2) 多職種連携、地域医療

- ① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
- ③ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。
- ④ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。

(3) 地域保健

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。
- ② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。

(4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を実践する。

③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

5. 修了判定の評価を行う項目と基準

下記の評価項目および基準を元に、総合的に評価して判定する。

評価項目：評価表の記載状況（研修医の自己評価および複数の指導医による客観的評価）、研修修了発表、口頭試問、レポート提出

評価基準：目標症例数の合計 100 症例のうち 60%以上経験すること、必修項目については最低 1 症例は実施すること、評価表の項目が全て 5 段階評価で 3 以上であること、研修修了発表、口頭試問およびレポートでの評価が B 以上であること